



# 学校通信

みやこ町立犀川中学校 校長 飯田恵文  
令和3年7月2日 No.4

## 3 学年紹介

生徒数:43名(男子27名・女子16名)  
3年1組【 一歩先へ 】  
3年2組【 疾走・目標に向かって走る・みんなで助け合い卒業まで駆け抜ける・下を向かずに前を向いて走る。 】



## 7 月行事予定



1	木	交通安全指導 7:50、1年プール
2	金	図書司書来校、小関 SC 来校 ブックトーク(1,2年)、2年プール
3	土	郡大会(アウト)
4	日	郡大会(アウト)
5	月	1年講演会(農業)、美化コンクール
6	火	1年プール
7	水	図書司書来校
8	木	2年プール
9	金	小関 SC 来校、情報モラル講演会
10	土	郡大会(イン)
11	日	郡大会(イン)、地区剣道
12	月	いじめアンケート、(放)補充学習
13	火	1年プール
14	水	2年プール、3年進路学習講演会
15	木	大掃除
16	金	保護者会(14:00~)
17	土	地区大会
18	日	地区大会
19	月	保護者会(1日)
20	火	終業式、生徒集会
21	水	
22	木	海の日
23	金	スポーツの日
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	吹奏楽コンクール(ソレイユホール)

### 学習環境について (挨拶、掃除、学習機会等)

6月に教師をめざして3人の教育実習生が来校しました。3週間学校教育活動に参加し、先生として生徒の前に立ちました。本人たちは、母校に戻り貴重な経験をさせてもらったと深く感謝していました。特に「自分が在籍していた頃よりも教室や職員室の清掃、挨拶の点を徹底されていることに感服させられました。」と聞き、とてもうれしくなりました。生徒が褒められることは、うれしい思いがします。引き続き、きれいな学校、挨拶があり、活気のある学校を目指していきたいと考えます。

本校の課題は学力です。学習意欲、学習内容、学習方法、家庭学習等課題は、たくさんあります。生徒に学習習慣付けをどのように図るのか、枠組みをどのようにつくるのが課題です。そして授業改善があります。学習指導要領の示されている主体的・対話的な深い学びをどのように授業の中で展開するのか。まず、生徒会の学習委員会が中心となって考査前昼休み学習会を企画、実施してくれています。21日~25日です。方法は、各学年の5教科の先生に週に1度、学習会に来てもらい、分からないところを教えてください。各クラスの学習委員代表が朝の会で呼びかけて少しでも多く参加してもらうようにしています。

そして、1年生が取り組んでいる放課後学習会、自習教室です。目的の1つは、考査に向けた学習意欲の向上を目指す。2つは、学習に取り組む機会を確保する。3つは、自学自習の習慣付けを行うです。(16:05~16:45)学習会は、各教科で試験範囲の内容を生徒が確認、質問できる場とします。自習教室は生徒が静かに自習を行う場とします。学習会、自習教室へ参加する生徒は、参加希望名簿に印を付けます。参加名簿は学年廊下に掲示します。

最後に授業改善です。「教えて考えさせる授業」づくりを通して授業研究を行なっています。生徒に分かる喜びを身に付けさせたいと考えます。



### 京都府総合体育大会に向けて

コロナ禍の中、十分な準備ができなかったと思いますが、3年生にとって最後の夏の大会が始まります。この大会を通じて自分も他者(同じチームの仲間、家族、監督、コーチなど)も共にかげがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切です。そして、思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、他者との心の絆をより強くすることに気付いてもらいたいです。感染ガイドラインに沿って全力で力を出し切って欲しいです。健闘を祈ります。

種目	大会期日	会場
サッカー	7月3,4日	犀川運動公園グラウンド
野球	7月3,4日	犀川運動公園野球場 苅田臨海総合グラウンド
バスケットボール	7月10,11日	育徳館中学校
バレーボール	7月10日	勝山中学校
バドミントン	7月10,11日	新津中学校
剣道	7月4日	行橋小学校
吹奏楽	7月31日	ソレイユホール

### 英語科の授業研究を行ないました。

外国語科(英語)の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成です。

英語の雰囲気を作るために chatting activity を行います。英語の語順を定着させるために Drill activity を行います。そして、本時間のめあての提示をしました。生徒は、真剣に取り組んでいました。学習過程の中でペア学習、3人組のグループ学習に取り組んでいました。

英語の授業が楽しくなり、学ぶことの喜びを感じて欲しいと思います。





## 挨拶（あいさつ）や感謝について



「挨拶(あいさつ)」は、教えられ無意識に習慣として実践してきた受け身の姿勢から挨拶の意義などを考え理解し、時、場所、場面に応じて自ら挨拶をしてお辞儀をするなど適切な言葉や行動ができることが求められます。日常生活において時と場に応じた適切な言動は、部活動等を通して学習してきたと思います。心情面を整えることによって形として外に表すことができるようになることもあります。礼儀の基本は、相手の人格を認め、相手に対して尊敬や感謝などの気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって初めてその価値が認められると考えられています。継続して元気な挨拶をして欲しいと切に願っています。

「感謝」の心は、他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方です。人間は互いに助け合い、協力し合って生きています。その関係を根底で支えているのは、互いの感謝の心であり、そこには申し訳ないという気持ちも含まれている場合があります。その意味で、感謝の心は、潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものです。人がおのずと感謝の念を抱くのは、他者の思いやりに触れ、それを有り難いと感じ、素直に受け止めたときです。そして、自分が現在あるのは、多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚するようになります。中学生になると利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走る場合があります。自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの善意や支えに気付く一方で、家族など日常的に接している人に対し、支えられてことを有り難いと思いつつも、うとましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じたりしています。思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が結果として自己と他者との心の絆をより強くすると思います。

## 教育相談の実施(6/5～8)

心身のストレスとともに授業や人間関係、部活動、進路等悩みや不安を抱えている生徒もいると思います。学期毎の担任等と話す時間を設定する教育相談や毎月のいじめアンケート等を実施しています。その他にスクールカウンセラーが毎週金曜日の終日、来校します。安心して話せる環境づくりに努めています。

## 門扉の開閉(6/21～)

池田小の校内児童殺傷事件から20年。「学校が安全で安心して学べる場所であるよう努力を続ける」一人、事件を経験した真田校長は言っています。みやこ町教育委員会から門扉の開閉を意識するように指示されました。



## 教育実習生が3人、来ました(5/31～6/18)

大学4年生の3人の学生が学校の先生を目指して、3週間教育実習をしました。国語、社会、保健体育です。それぞれの教室に貼り付き、朝の会から帰りの会まで生徒とともに過ごしました。

教育実習を通して生徒から助けられ学んだと言っていました。教諭を目指して今年からチャレンジをするそうです。



## 小論文に力 30歳校長の改革

(引用文献 朝日新聞 5, 23)

私立移管の元町立女子商業高

今春、国立公立大学への合格者数を大幅に増やした商業高校がある。牽引役となった平成生まれの若手国語教諭が取り組んだのは、徹底した小論文対策だった。教諭はわずか30歳で校長に抜擢され、学校づくりにさらに力を入れる。

4月下旬、下校する生徒や部活動に向かう生徒が行き交う放課後。私立福岡女子商業高校(福岡県那珂川市)の視聴覚室に、学年の半数を超える60人の3年生が集まっていた。進学希望向けの「進学講座」に参加するためだ。「大事なことは興味を持ちにくいこと」「小論文は序論から結論までぶれちゃいけない。これから文章をめちゃくちゃ書いていくので、意識しなくてもぶれることはなくなっていくから」

生徒に話しかけるのは国語教諭で校長の柴山翔太さん(30)。商業高校で屈指の進学実績を持つ私立神戸星城高(兵庫県)で小論文指導に携わった。その経験をさらに生かそうと昨春、福岡女子商高にやってきた。1950年設立の福岡女子商高は、長らく那珂川町(2018年に市制へ移行)が運営していたが、少子化もあって定員割れに悩む中、人口5万人ほどの自治体では学校運営が困難になるとして17年に私立に移管。ICT(情報通信技術)

教育に力を入れるなどしてきた。重視したことの一つが、「進学に強い」学校づくりだった。それまで、生徒の進路の中心は地元企業への就職だった。今年3月まで校長だった柴田晴天さん(67)は「専門知識が求められる社会になり、より高度な教育が求められている」と感じていた。進学先が国立公立大学であれば、保護者の学費負担なども軽い。兵庫で実績を積み、「もっと学校づくり全体に携わりたい」と考えていた柴山さんと相通じ、昨春、招いた。柴山さんが狙ったのは、学校推薦型選抜など推薦型の入試だ。一般入試と異なり、提出書類や面接、小論文などで合否が決まる。

国立公立大合格者ゼロ→今春20人

新たに課外で始めた90分の「進学講座」を1学期は週に1回開き、柴山さんが小論文対策の講義をする。生徒は課題を持ち帰り、提出された小論文を柴山さんが添削。これを繰り返す。空き教室を活用した「スタディールーム」は、柴山さんだけの依頼で設置された。進学希望の生徒が放課後、自由に勉強することができる。新聞も用意され、切り抜きや問題文などを貼って「小論文ノート」をつくり、試験に備える。昨年は夏休みにも開講し、2学期に入ると平日は、ほぼ毎日に。試験が迫る10月は土曜日でも学校で指導した。生徒が書いた小論文は60本ほどになった。

## 進路説明会6/25を行いました。(3学年)

犀川中学校校内推薦基準(推薦にふさわしい生徒)

- 時間を守る生徒。(遅刻、チャイム席など)
- 身だしなみがきちんとして、きまりを守り、生活態度の良い生徒。(服装、頭髪、規則、挨拶礼儀など)
- 係活動や当番活動をまじめにする生徒。
- 授業をまじめに受ける生徒。

高校入試のしくみや一般入試の合格者決定方法推薦入試などについて校長や進路指導主事から説明をしました。さらに、東筑紫学園高等学校の事務の先生から高等学校等就学支援金等の話をしてもらいました。7/14に進路学習講演会をします。生徒は、自分の進路実現をかなえて欲しい。